

# Link

KOMAZAWA  
UNIVERSITY

Vol.7  
2017.5

## 新たなステージに 繋げる 駒澤イズム

[特別対談]

「伝統芸能を未来に繋ぐ ファン拡大をめざして」

### 善竹大二郎 & 白藤ひかり

狂言師

津軽三味線奏者

大学生の力を活かした集落活性化事業  
～佐渡市羽茂大崎集落～

### 経済学部 姉齒 暁ゼミ

アイススケート部

「悲願のリーグ戦初優勝! 泥臭いプレーでバックを追う」

### Ice Hockey Team

「シンクロナイズド・スケーティングで世界に挑み、羽ばたけ!」

中畑 澄玲 フィギュアスケート部門

[名誉教授に聞く]

### 谷敷 正光 名誉教授

[卒業生インタビュー]

「豊かな海をはぐくむ サンゴ礁を守り続けたい」

### 鈴木 倫太郎

公益財団法人WWFジャパン

サンゴ礁保護研究センター「しらほサンゴ村」センター長

C O N T E N T S

2 [特別対談]  
「伝統芸能を未来に繋ぐ ファン拡大をめざして」  
**善竹大二郎 & 白藤ひかり**  
狂言師 津軽三味線奏者

6 大学生の力を活かした集落活性化事業  
～佐渡市羽茂大崎集落～  
経済学部 **姉齒 暁ゼミ**

8 アイススケート部  
「悲願のリーグ戦初優勝！  
泥臭いプレーでバックを追う」  
**Ice Hockey Team**  
「シンクロナイズド・スケーティングで  
世界に挑み、羽ばたけ！」  
中畑 澄玲 フィギュアスケート部門

10 グローバルなブランド確立をめざす駒澤大学の取り組み  
**GLOBAL KOMAZAWA**

12 [名誉教授に聞く]  
「教職ゼミから千人を超える教員を輩出  
ゼミ生との交流は今も続く」  
**谷敷 正光** 名誉教授

13 [卒業生インタビュー]  
「豊かな海をはぐくむサンゴ礁を守り続けたい」  
**鈴木 倫太郎**  
公益財団法人WWFジャパン  
サンゴ礁保護研究センター「しらほサンゴ村」センター長

16 [研究レポート]  
「系譜の宗教であり、問答の宗教である中国の禅宗。  
その語録の思想的解釈に取り組む」  
総合教育研究部 **小川 隆** 教授  
「世界的な政治への不信の高まりの中で  
揺らぐ代表制民主主義はどうなる？」  
法学部 **山崎 望** 教授

18 **駒大NEWS**  
2016～2017

20 数字でみる **駒澤大学の就職力**  
求人企業は1万4726社、求人倍率5倍以上！  
2016年度卒業生就職データ

22 [学長インタビュー]  
「学生ファースト」を基本に  
駒澤大学ならではの教育を追求  
**長谷部 八朗** 駒澤大学学長  
沿革/学校法人駒澤大学教育機構

※表紙：開校130周年記念棟「種月館」2017年12月完成イメージ

制作・発行 駒澤大学 総務部 広報課

津軽三味線奏者

白藤ひかり

特別対談

善竹大二郎

狂言師

伝統芸能を未来に繋ぐ  
ファン拡大をめざして

駒澤大学卒業生には伝統芸能の達人も多い。室町時代から続く狂言の家に生まれ、古典芸能の世界に新風を吹き込んでいるのが狂言師の善竹大二郎さん。一方の白藤ひかりさんは、9歳のとき津軽三味線に魅せられ、全国大会で最年少優勝し、デュオ「輝&輝(きぎ)」を結成。ともに国境やジャンルを超えて活躍している。

伝統芸能の世界に入った  
きっかけ

— お二人がそれぞれの世界に入った  
きっかけは？

善竹 先祖代々の狂言の家で生まれました。物心がついたばかりの3歳から稽古を始め、5歳のときに「靉猿」の小猿役で初舞台を踏み、今に至っています。

初舞台は東京・水道橋にある宝生能楽堂で、猿引の役を祖父の善竹圭五郎(故人)がつとめ、シテの大名役を人間国宝の茂山千作(当時は千五郎・故人)先生、太郎冠者が私のおじの大蔵吉次郎、という豪華メンバーでした。何しろ5歳の子どもですから、なかなか言うことを聞かない。リハーサルのとき千作先生に「何か欲しいものはないか」と聞かれ、「トランスフォーマーのロボット」と答えたところ、先生自ら「トパー」に出向き、ロボットを買ってくださいました。オモチャ欲しさにやっていたわけですね。

とはいえ小さいときから祖父や父(善竹十郎)の背中を見てきたので、今は使命感といますか、先祖に恥じない芸をしなければと取り組んでいます。



新たなステージに  
繋げる  
駒澤イズム

今年開校135年を迎える駒澤大学。

この12月には、学びの新しい核となる

記念棟「種月館」が竣工し

いよいよ来春、運用が始まる。

今号のLINKでは、

社会や仲間との繋がりを生かしながら

新しいステージに向けてチャレンジを続ける

駒澤人の姿と想いを紹介しよう。

インタビュー・撮影場所：駒澤大学深沢キャンパス 日本館

その人の人生や人間性が全部、音に出てくるのが津軽三味線

津軽三味線奏者

# 白藤ひかり

白藤 福岡県に生まれてすぐに兵庫県に引っ越しましたが、福岡に住む祖母が民謡三味線をやっていて、小学校3年生ぐらいの夏休みに家族で帰省していたとき「三味線に触ってみたい？」と言われて手にしたのがきっかけです。

「さくらさくら」を最初に教えてもらった30分ぐらいで弾けたんですよ。自分で弾けるといことが楽しくて、もっといろいろな曲を弾きたいと思うようになり、祖母から使っていない三味線をもらって、1年ぐらいい毎日一人で弾いていました。それを見た母が「そこまでやりたいなら」と教室を探してくれて、その教室がたまたま津軽三味線の教室だったんです。

10歳のとき、青森県の弘前市で行われた津軽三味線全国大会のジュニアの部に初めて出場しましたが、予選止まりで、まわりの子たちのレベルの高さにびっくりするばかり。でも、負けず嫌いなのでうまく弾けなかったのが悔しくて、そこからより一層、津軽三味線にのめり込むようになり、2年後の12歳のとき初優勝することができました。

## 口伝え、耳で聴いて覚える稽古 間合いが大事

善竹 12歳で初優勝とはすごいですね。稽古はどのように？  
白藤 中学2年から東京の福士豊秋先生に師事しました。津軽三味線を始めてからいろいろな方の演奏を聴きましたが、豊秋先生の演奏に感動して、習っていた兵庫の師匠に相談したら「立派な方だからぜひ行っておいで」と勧めてくださり、弟子入りすることにしました。

夏休みなどに上京して集中的に教えていただいたのですが、バチの持ち方から打ち方まで全部変えるように言われ、最初はとまどいばかりでしたが、豊秋師匠が出てくる音に少しでも近づきたいと、必死になって稽古しました。でも、稽古そのものはすごく楽しく、つらいと思っただけではありません。

善竹 狂言の稽古は、基本的に口伝えで、おむ返しで覚えます。狂言では舞台上で登場人物が現れるとまず「名乗り」といわれる

## 国内外にファンを広げていくために

善竹さんは、一般への狂言の普及や海外公演などにも積極的です。

善竹 能の会などの定期公演以外に、幼稚園から小・中・高校、大学、また特別支援学校にも出かけて狂言を演じ、最後にみんなに体験してもらって活動をしています。

最初は2人でカラオケボックスなどで練習していたのですが、やがてデュオ部門のある大会に出たり、ライブをやったりしているうちに、知り合いから演奏依頼がくるようになって、けっこうあちこちに行きました。就職活動の時期になって進路をどうしようかと考えたとき、2人ならやっつけると話し合い、プロの世界に入ったのです。

母校である駒澤大学には卒業後もお世話になっていきます。同窓会の支部が全国にあり、各地の支部総会などで演奏したり、そこからさらに縁が広がったり。  
善竹 私も2013年から、国文学科の1年生の初年次教育で外部講師として3回にわたって狂言を教えています。

## 互いの芸の魅力を引き出す コラボ企画を実現したい

自己紹介をします。ほとんどの場合「これはこのあたりに住まいいたす者でござる」と言うわけですが、師匠が「これは」と言ったら自分も「これは」と繰り返す。セリフに抑揚があるのでその上げ具合に注意して、口伝えで覚えます。自己流ではだめなんです。間とか、声の響きも大事で、ふだんは父が稽古をつけてくれますが、いつも怒られるばかりです。

白藤 今のお話を聞いて、すごく似ているなと思いました。私の場合も、新しい曲を覚えるときはまず師匠が弾いて、それを聴いて弾きます。もともと津軽三味線は坊様と呼ばれる盲人芸能者の音楽なので、楽譜はないのです。今は演奏する人が増えて楽譜で覚える人もいますが、基本は耳で聴いて覚えます。

師匠からは特に、間が大事だといつも言われましたね。津軽三味線のいちばん難しいところは、ソロで弾くところではなく唄に合わせることです。本来、津軽三味線は津軽民謡の伴奏のためのものなので、原点といえるのが津軽民謡。歌い手さんによって節も違うし長さも違う、歌詞も好みのスピードも

笑で、笑いすぎた女性が息ができないからと退席したり(笑)、あのときの熱気は本当にすごかったです。  
白藤 私も、和楽器を知らない若い人に広める活動に力を入れていこうと考えています。最近、和楽器を取り入れるアーティストが増えて三味線を弾いたりしているけれど、多くは「ポップに寄せた和楽器」という扱いでしかないのも、もっと民謡の良さを知ってもらいたいし、津軽三味線の魅力も伝えていきたい。奏者によって全く違うのが津軽三味線で、楽しいだけではなく、その人の人生や人間性が全部、音に出てくる。その奥深さに触れてもらえたらと思います。

善竹 一般の方は、古典芸能だから難しいと構えてしまいがちです。でも、まずは先入観なしに、生の舞台を観てほしい。格式が高いと敬遠されないう、足を運んでもらえる企画にも力を入れていくつもりです。  
白藤 今年7月にカザフスタンで開かれるアスタナ万博で、津軽三味線の上妻宏光さんのプロデュースで東儀秀樹さんとダンスカンパニーなどとコラボして日本の伝統文化



Shirafuji Hikari

白藤ひかり プロフィール  
1990年福岡県北九州市生まれ。兵庫県川西市で育つ。9歳より津軽三味線を始め、全国大会A級を最年少で優勝、翌年も優勝して2連覇。2012年駒澤大学文学部国文学科卒業。在学中にデュオ「輝&輝(きき)」を結成。全日本津軽三味線競技会名古屋大会デュオの部で優勝6回。



演奏中の輝&輝(右が白藤さん)

違うので、歌い手さんのひと声を聴いてすぐ「これぐらいのテンポが歌いやすいだらうな」と、間をつくってあげないといけないのです。  
善竹 やはり間合いが大事なんですね。  
白藤 豊秋師匠からは歌いやすい間合いを早く覚えなさいっていつも言われていました。でも、その師匠は今年の2月、がんのため63歳の若さで亡くなりました。教えてもらいたいことがたくさんあったので、とても残念だし、今も悲しいです。

## 学生時代の思い出

駒澤大学の学生時代の思い出は？  
善竹 偶然、歴史学科に私と同じ年ののがこが入りまして。私の祖父は狂言界初の人間国宝になった善竹彌五郎の五男ですが、彌五郎の二男が大蔵流宗家に養子に入ってから二十四世大蔵彌右衛門を名乗り、その孫が大蔵教義くん(のりこ)で、やはり狂言師です。彼がいたおかげで大学生活がとても楽しかった。2年のときには2人で「狂言研究会」というサークルをつくりました。この



を発信する公演に加わる予定です。能や歌舞伎と津軽三味線がコラボする取り組みも最近出てきているし、善竹さんの狂言とコラボする機会があるといいですね。  
善竹 ぜひとも！一昨年、津軽三味線ではないけれど西洋音楽(バイオリン、アコーディオン、コントラバス)と狂言を組み合わせてディケンズの「クリスマスキャロル」を翻案した音楽狂言「寿来命(スクリューシ)」を、父との共演で上演しました。西洋音楽に限らず、津軽三味線や日本の音楽で、もっと幅広い層に伝統芸能をアピールしたいですね。

# 善竹大二郎

狂言師

古典芸能だから 難しいと構えたりせず ぜひ一度、生の舞台を観てほしい



Zenchiku Daijiro

善竹大二郎 プロフィール  
1981年東京生まれ。室町時代からの大蔵流狂言を受け継ぐ善竹十郎の二男。父と祖父の故善竹圭五郎に師事。5歳で初舞台。2004年駒澤大学文学部国文学科卒業。東京を中心に活動し、全国の小中高、特別支援学校などで狂言の普及に尽力する一方、海外公演にも多数参加。



撮影：国東 薫

プロジェクトを進めるにあたり重視したことがあった。それは「調査が終わったら活性化の取り組みも終わりという、学生の自己満足のためのプロジェクトにはならない」ということだった。佐々木蒼一郎(商学)

**大学生が帰ったら終わりで  
本当の活性化にはならない**

学生たちは、まずは徹底して事前学習を行った。調べてみて驚いた。まるで知らなかった羽茂大崎地域だが、実は豊かな歴史と伝統を持つ地域だったのだ。

「日本の原風景のような自然はもちろん、能楽や文弥人形といった伝統芸能が代々受け継がれ、藁で手作りされる「絞張馬」などの工芸品や地元特産の十割蕎麦など、地域資源に恵まれていました」と話すのはゼミ長の田中勇也(商学科3年)だ。

1回目の現地調査が行われたのは8月15日から23日まで。事前に調べてはいたものの、「本当に何もなかったら、未知との遭遇という感じでした」と振り返るのはゼミ生の塩本夏美(商学科3年)だ。

**体当たりで熱心に話を聞くうちに  
信頼が生まれていく**

「新潟県は3年前からこの事業を行っています。各大学が取り組んだ内容を見ると、大学生が現地に行つてイベントを行う、あるいは何かしらの商品をつくって、大学生が帰ったらそれで終わり、というケースが多い。それでは本当の地域活性化には繋がりません。そこで何とかして持続性のある活性化策を提案したいと考えました」

科3年)は語る。



# 大学生の力を活かした 集落活性化事業

～佐渡市羽茂大崎集落～

## 経済学部 姉齒 曉ゼミ

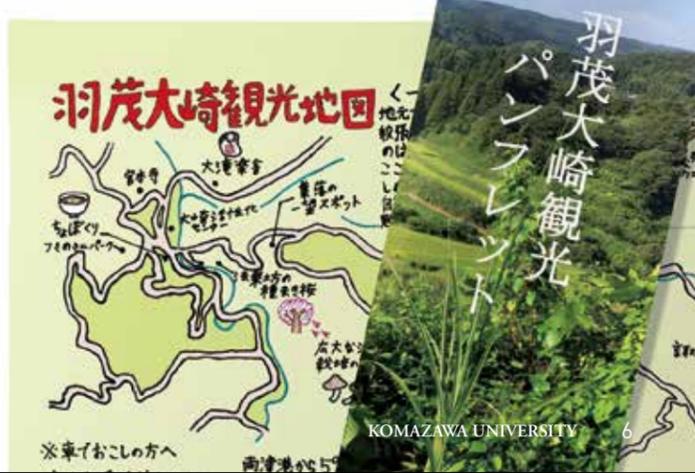
佐渡の過疎地域を  
どう活性化するか?  
現地に泊まり込んで  
持続性ある提案づくりに奮闘

過疎化や高齢化に直面する地方の集落は、どの方向に舵を切れば良いのか苦悩している。「そこに目を向けない経済学なんてありえない」と経済学部の姉齒曉ゼミが取り組んだのは「佐渡・羽茂大崎集落活性化事業」。めざしたのは、一過性で終わるのではなく住民が主体となって取り組む活性化策の提案だった。



ゼミ生が見つけた羽茂大崎のホームページ  
<http://anehaseminar2016.wixsite.com/hamochiosaki>

学生たちがつくった観光マップは印刷され  
役場やフェリー乗り場などに置かれることになった



現地調査の様子

しかし、目を凝らしてみれば人々の生活があり、地元根づいた文化があった。「羽茂大崎の蕎麦は佐渡の中でも有名で、年に5回ほど「大崎そばの会」が開催され、毎回多くの人で賑わっているんです。このイベントを主催する方にインタビューしたり、地域のいろいろな方のお話を伺い、企画を話していきました」

こうして資料だけでは気付かなかった地域の良さが少しずつ見えてくる。熱心に話を聞くうち、本気度が伝わって信頼感が生まれ、次々に人を紹介してもらえた。そんななかで、新しい提案に結びつく出会いもあった。

佐渡の地鶏で「ひげ地鶏」と呼ばれるニトリ品種がある。あこに長いひげがあるのが特徴で、現在、ブランド化をめざして島内で繁殖や卵などを使った商品化が進められている。学生たちが提案したのは、この鶏の飼料に無農薬・化学肥料なしでつくられる羽茂大崎の蕎麦から出る蕎麦殻を使えないかというもの。現在、ひげ地鶏の生産者と提携の話が進んでいるという。

「最初は、大したことなどできるわけがないと考えていた学生が、地方の問題とがっつき四つに組んで、多くの人との出会いや繋がりを通じて、驚くほど成長しました。真剣なチャレンジによって新しい世界が拓くことを学んだ貴重な機会になったと思います」

**住民自身が集落の今後を話し合う  
「大崎あつまらんか」が発足**

持続性をめざす学生たちにとってうれしいニュースもある。住民自身が集落の今後を話し合う「大崎あつまらんか」という会がつけられたことだ。

「観光マップづくりや、蕎麦殻の島内循環などの提案を行えたこともうれしいけれど、一番手応えを感じたのは「大崎あつまらんか」のような会ができたことですね。地域の方と意見交換するうち、住民自身で集落の将来を考えようと活発に動き出しています」(田中)



3月13日(月)に新潟県庁で開催された最終報告会での発表。  
左から大曾根美穂(当時4年)、塩本夏美、佐々木蒼一郎、田中勇也

姉齒ゼミが取り組んだこのプロジェクトは、新潟県の公募による受託事業で、過疎・高齢化が進む集落に外からの力として大学のゼミなどが入り、大学生の若い発想力や行動力、専門知識を活かして調査研究を行い、集落の活性化を図るのが目的。

新潟県が全国の大学に呼びかけて2013年度から毎年実施されていて、16年度は駒澤大学をはじめ10大学・12のゼミなどが選ばれ、2016年4月、1年間にわたるプロジェクトがスタートした。

姉齒ゼミが調査研究を任されたのは佐渡島の羽茂大崎地域。島の南部に位置し、7つ

の集落(世帯数83、人口215人)からなる自然豊かな山間の地域だが、高齢化率も54.4%と高い。

調査研究を行うにあたって、姉齒教授には強い思いがあった。

「ゼミの学生たちはほとんど全員が都会に住む非農家の出身。都会で学んでいると、あたかも経済学は都会の生活のための経済学と捉えてしまいがちです。」

しかし、日本全国を見渡すと、中山間地域や農漁業地域が広がっています。そこに目を向けられない経済学なんてありえない。過疎地域の農業や生活を考えることは、都会で暮らす私たちの生活にも繋がっているはず。学生たちには、ぜひともそこを学んでほしいのです」

**世界大会に出場**  
演技で一番難しいのは、何人かで1人の選手を持ち上げるリフトという大技だ。

「決まった練習は週3回。リンクを使っている練習ですが、一般の利用が終わってからの夜遅くから。そのほかダンスやバレエの練習、陸上のトレーニングもあります。勉強との両立は大変ですが、充実した毎日です」



世界選手権のショートプログラム

**成功したときの喜びは2倍**  
シンクロナイズド・スケーティングは1チーム16人からなる団体競技。その日本におけるトップチームが「神宮」のMessengersで、中畑は駒澤大学入学とともにチームに所属し、今年2年目を迎える。

「3歳からスケートを始めましたが、この競技を始めたのはチームに入ってからです」

中畑によると、シンクロナイズド・スケーティングの楽しさは、シングルとまったく異なるという。

「シングルは一人で滑るのですごく緊張するけれど、団体だと演技しているときも仲間の顔が見えるので楽しい。もちろん、試合では自分のミスがチーム全体のミスになってしまうので、責任はシングル以上に重けれど、その分、成功したときの喜びも倍です」

16人が一緒に滑って、スピードに乗りながらいかにシンクロしているかを見せなくてはならないため、練習は厳しい。

「決まった練習は週3回。リンクを使っている練習ですが、一般の利用が終わってからの夜遅くから。そのほかダンスやバレエの練習、陸上のトレーニングもあります。勉強との両立は大変ですが、充実した毎日です」

「体力を使うし、靴には刃物がついているのでケガが一番怖い。陸上トレーニングで何度も上げるタイミングを練習して本番に臨んでいます」

中畑が所属するチームは今年2月にフランスのルーアンで開催された国際大会「フランス杯2017」に日本代表として出場。4月にはアメリカ・コロラドで開催された世界選手権にも日本代表として出場。結果はフランス杯が10位、世界選手権が12位だったが、中畑はいずれの大会にもメンバーの1人として出場を果たした。

「さらに練習を重ねて技を磨き、仲間と呼吸を合わせたいですね」

シンクロナイズド・スケーティングは、将来的にはオリンピック種目になる可能性もあるという。さらなる活躍を期待したい。



漆田/前列左から4人目、坂谷/後列左から2人目

## 悲願のリーグ戦初優勝! 泥臭いプレーでパックを追う



写真提供:駒大スポーツ

## Ice Hockey Team

アイススケート部



# Komazawa Ice Skating Club

## シンクロナイズド・スケーティングで 世界に挑み、羽ばたけ!

氷上を滑走しながら技術や表現力を競うフィギュアスケート。  
その団体競技がシンクロナイズド・スケーティング。  
日本のトップチームに所属する中畑澄玲選手(法学部法律学科2年)は、  
日本代表の一員として世界に羽ばたく

## Figure Skating

アイススケート部(フィギュアスケート部門)

すみれ  
中畑 澄玲



横浜赤レンガ倉庫スケートリンクのオープニングエキシビジョン



駒澤大学アイススケート部が快挙を成し遂げた。  
平成28年度関東大学アイスホッケーリーグ戦(2部)で初優勝したのだ。  
部員の多くはアイスホッケーもスケートも大学に入ってからという初心者。  
リーグ屈指の攻撃力を武器に、7戦無敗で勝ち進んだ背景は――?

### 強い気持ちが優勝の原動力に

「それまでは優勝候補と言われながら準優勝止まりで悔しい思いをしてきました。先輩たちは、「今年は絶対負けたくないぞ」という気持ちが特に強く、優勝の原動力になったと思います」

そう語るCF(センターフォワード)の漆田(政治学科4年)は、秋のリーグ戦で得点・アシストを合わせたポイント王となりMVPに輝いた。この4月から主将となり、チームを率いている。

漆田は小1からアイスホッケーを始めた。しかし、彼のような経験者は2、3人で、大学に入ってアイスホッケーを始めたとか、そもそもスケート靴を履くのも大学に入ってから、という部員が多い。

しかも練習環境は決して恵まれていないとはいえない。リンクを借り切った氷上練習は週に1回、深夜の2時から2時間程度しかできない。そこで力を入れるのが陸上でのトレーニングだ。漆田がメニューを考え組み立てている。

「アイスホッケーは意思疎通が重要。いかに先を読んで動くかが問われるので、仲間のねらいを瞬時に読み取って動く練習に力を入れています」(漆田)

主務として部を支えている坂谷実季

「グロバー・メディア学科4年)は、チームの良さをこう語る。

「駒澤の選手たちのプレーって、やんちゃというか体を張ったプレーが多い。1人でパックに食らいついたり、がむしゃらな泥臭いシュートをよく打ちます。経験者と初心者が混ざった良さというかそこに惹かれるファンの方も多いいんですよ」

### チームの成長が何よりもうれしい

優勝を支えた主力が去り、2017年度はさらに初心者の割合が高くなる。漆田は、この1年でもっとチームを鍛え上げられるかが課題と言う。

「自分の想いをどれだけ残せるかが勝負。どんな相手でも本気でぶつかると喜びを感じられるチームであってほしいのです。以前は自分が点を決めることが喜びでしたが、今は自分が教えた後輩がいいプレーをしてくれるほうがはるかにうれしい。チームの成長に手応えを感じています」

坂谷は、「広報に力を入れて、ファンを増やしていきたい」と語る。二人とも想いは同じだ。

「二人でも多くの人に、パックを追いかける選手の姿を間近で見たいです」

### 『禅と心』研究の学際的国際的拠点づくりとブランド化事業

駒澤大学は、禅(ZEN)の新たな研究領域を開拓するとともに、現代人の心の問題に新たな提言を試みるため、曹洞宗、臨済宗の禅院や学外の研究機関などと連携し、『禅と心』研究の学際的国際的拠点づくりとブランド化事業」をスタートした。

文部科学省が平成28年度から実施する「私立大学研究ブランディング事業」タイプB(世界展開型)に選定されたもので、事業の目的は、①禅(ZEN)の思想的研究を基礎として、現代人が抱える「心」の問題に対し、新たな提言を行う、②禅(ZEN)の研究を超領域的に行うことを通し、新たな視座を獲得する、③禅(ZEN)思想の根幹である「坐禅」が身心に与える影響を科学的に検証する、④それらを総合的に結んだ研究の成果を、混迷の一途をたどる国内外に向けて発信する全学的な組織(禅研究センター)を設置する、の4点。

<https://www.komazawa-u.ac.jp/zen-branding/>

### バリアンメディカルシステムズ社と「放射線治療人材教育センター」を設立

学校法人駒澤大学とアメリカに本社を置くバリアンメディカルシステムズ(日本法人)が、日本で初めて産学連携による「放射線治療人材教育センター」を設立。2016年11月8日に調印式を行った。

(リニアック)「TrueBeam」と放射線治療計画システム「Eclipse」、放射線治療データ管理システム「Pinnacle」を導入して、実機を利用した教育コースを設置。放射線治療技術の知識やスキルの上昇のみならず、駒澤大学における医療健康科学部や大学院医療健康科学研究科の学生・大学院生らの技術教育の高水準化を図ることを目的としている。



調印式の様子



バリアン社 医療用直線加速器 (リニアック)

Copyright ©2007, Varian Medical Systems, Inc. All rights reserved.

### ハンブルク大学 人文学部アジア・アフリカ研究所(ドイツ)と国際交流協定を締結

駒澤大学とハンブルク大学人文学部アジア・アフリカ研究所は、2017年1月9日、「国際交流協定」と「学生交換協定」を締結した。

このたびの締結は、仏教学の伝統を持つ駒澤大学の教育研究にとって中長期的に有益であり、大学院での研究が一層活性化されることが期待されている。



ハンブルク大学 人文学部アジア・アフリカ研究所

### さまざまな経験を糧に、ポジティブ志向に！ 視野が大きく広がりました

駒澤大学と協定を締結している海外の大学と学生を相互に交換して研修する交換留学制度。この制度を利用して約1年間にわたり、アメリカのカリフォルニア州立大学ロサンゼルス校で学んだ山崎茜さん。異文化の真つ只中で、他国の学生たちとの切磋琢磨を通じて得たものとは？

山崎 茜

グローバルメディア・スタディーズ学部  
グローバル・メディア・学4年

年間卒業が可能なことも留学の後押しとなりました。

「留学を希望した理由は？」  
大学の4年間に何か「自分はこれを頑張った」というものがほしくて希望しました。5歳から10歳まで父の仕事の関係でアメリカで生活していたこともあり、英語が得意だったこと、また留学中の期間も駒澤大学での在籍期間に加えらるので、4

年間卒業が可能なことも留学の後押しとなりました。  
留学先ではどんな勉強を？  
コミュニケーション学や英語でエッセイを書く授業のほか、ちょうど大統領選挙の年だったので、アメリカの政治システムを知りたいと政治学を履修しました。日本の大学と

比べると授業数はかなり少ないのですが、授業の準備が大変。図書館にもって電子辞書を片手に資料を調べる毎日でした。

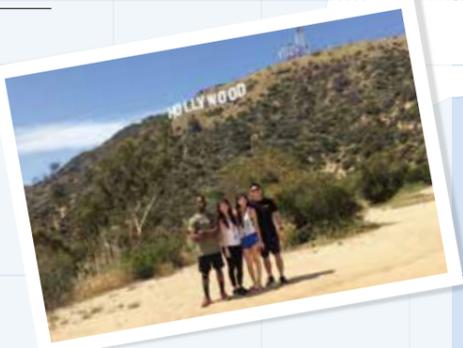
「Advanced Writing」の授業は、毎週、A4で4〜5ページのエッセイを書かなくてはなりません。幸いなことに大学にライティングセンターがあって、大学院生が添削や、まとめかたの相談に乗ってくれるので、実に心強かったですね。

「普段の生活はどうでしたか？」

大学の敷地の隣にある寮の2人部屋に住みました。ルームメイトはアメリカ生まれのメキシコ人で、免許がなく、車の運転ができなかった私を買いたい物や観光に連れていってくれました。多くの国から学生が集まっています。パーティがたびたびあり、楽しかったですね。

「留学して得たものは？」

視野が広がりました。今まで自分



休日に友人と出かけたハリウッド(左から2人目)

がいかに狭い世界しか見てなかったかを痛感しました。日本から一歩外に出てみて、本当によかったと思っています。

実は、もともと自分に自信が持てないところがあり、ネガティブにものごとを考える面があったのですが、留学先ではポジティブでマイペースの人が多く、何ごとにも「大丈夫だよ」と言ってくれる。そんな環境の中で生活することで以前よりずっと自分に自信が持てるようになりました。何ごとも自分から動かないとダメなので、積極性も増しました。

「日本に戻っていかがですか？」

英語だけの毎日を過ごしていたので、日本に帰ってしばらくは友人との会話も、途中で英語になってしまったたり(笑)。英語が好きだということを変更して感じ、英語を生かせる仕事に就きたいと考えています。



深沢キャンパス 国際センターの前で。「国際センターのスタッフの方は留学手続きや、留学先での生活などいろいろアドバイスをくださいました」



# GLOBAL KOMAZAWA

グローバルなブランド確立をめざす駒澤大学の取り組み

名誉教授に聞く



谷敷 正光 名誉教授

1946年北海道生まれ。68年駒澤大学経済学部経済学科卒業。70年同大学院経済学研究科修士課程修了。73年博士課程満期退学。同大学経済学部助手、講師、助教授を経て2003年に教授。16年定年退職。専門は教育経済学。近現代日本産業・経済発達史と人材育成がテーマ。

教職ゼミから千人を超える教員を輩出  
ゼミ生との交流は今も続く

中高の教員になりたかった夢を  
若い後輩たちに託す

駒澤大学での43年にわたる教員生活で思い出すのは多くのゼミ生との出会いです。  
学生時代は中・高校の教員になるつもりで猛勉強し、教員採用試験にも合格したのですが、研究にも魅力を感じており指導教授の勧めで大学院に進み大学の教員になりました。  
講師になってすぐの授業で、「教職の試験を受ける人はいるか？」と聞くと、何人かの学生が手を挙げました。そこで私が教職を受験したときのノウハウを学生にアドバイスしたのですが、当時は教員になるのが非常に難しい時代で、一生懸命教えたけれど受かる人はいなかった。

たのです。それがとてもショックで、何とかしなければと立ち上げたのが教職ゼミでした。  
とにかく勉強しないとだめだと、毎日夜中の12時ごろまで学生と勉強会を開きました。今のように問題集や参考書がない時代ですから手探りの勉強です。その結果20人ぐらいのゼミ生のうち、半分の10人が公立学校の教員採用試験に合格しました。受かるとわかれば学生の期待も高まって、あっという間に40〜50人のゼミになりました。  
10年経つころには、中・高では教員採用試験に実績のある国立、私立の有力大学を凌駕するまでの結果を残すようになったのです。  
学生たちによく言っていたのは、「この県にこの教師あり」と言われるほどの先生になり

なさい、ということ。誰も発想しないような特色のある優れた教育実践をしている先生を駒澤大学からたくさん輩出しています。

たとえ今は小さくても、  
君が一流会社にすればいい

経済学部の正課ゼミでは、とにかく合宿を重ねました。夏、冬、春のほかに、4年生は就職試験の直前にも合宿して、年に4回もやりました。勉強もしますが夜通し話してコミュニケーションも深めました。私は夜中に布団をかけて回る役でした。一緒にスポーツもやりました。語り合い、勉強するから、仲良くもなるし、人間的にも成長していきます。

思い出せば、昔は駒澤大学のような中堅大学からは一部上場の大企業にはなかなか入れない時代でした。悔し涙を流す学生もいて、私も悔しい思いをしました。  
そのときも私は言ったのです。  
「今は小さな会社でも、君が一流会社にすればいい。社長になればいいじゃないか」

その後、本当にそうになりました。最近、正課ゼミの学生だった人たちの会合に参加したら、小さな会社が大きくなって、みんなその取締役とか部長になっているし、昔は絶対に入らなかったような大企業の部長も大勢います。駒澤大学に43年もいましたから、早い時期に教えた学生はもう定年です。つまり、私は結果を見ているんです。私が言ったことは単なる夢物語ではなかったということ、彼らが証明してくれています。

紡績会社に高等女学校が開校  
埋もれた資料を発掘して研究

研究の面では、教育経済学の分野を立ち上げ、近代産業が勃興する時代の経済発達史と人材育成をテーマに研究を続けました。コッポツと論文を書きためて、2015年に「戦前期綿糸紡績業における女学校の成立」（創成社）と題する著書を上梓しました。

戦前の綿糸紡績会社では工場内に高等女学校を開校し、有用な人材を育ててきた歴史があります。しかし、当時の資料は全く残っておらず、この会社はどういう学校があったかも不明なことが多かったのですが、埋もれた資料を発掘して調べた結果わかったことが数多くあります。今後もこの研究をさらに深めていきたいですね。



経済学部正課ゼミ。ゼミの同窓会ともなれば、100人を超える仲間が集まる

豊かな海をはぐくむ  
サンゴ礁を  
守り続けたい

公益財団法人WWFジャパン  
サンゴ礁保護研究センター「しらほサンゴ村」センター長

鈴木倫太郎

子どものころから地図帳を眺めるのが大好きで、  
大学で地理学を学ぼうと駒澤大学へ進学した青年は、  
2年次のフィールドワークで訪れた石垣島でサンゴ群集の美しさに魅せられる。  
以来22年間、さまざまな仕事に就きながらも、一貫してサンゴ礁の研究を続けてきた。  
そして今、地域の人々と連携しながら  
豊かな海の生態系を支えるサンゴ礁保全の仕組みづくりに奔走する毎日だ。

卒業生インタビュー



しらほサンゴ村

世界自然保護基金ジャパン WWFサンゴ礁保護研究センター  
Japan Coral Reef Conservation and Research Centre

鈴木 倫太郎 プロフィール

1973年東京生まれ。98年駒澤大学文学部地理学科卒業。2000年岡山大学大学院教育学研究科社会科教育専攻修士課程修了。04年駒澤大学大学院人文科学研究科地理学専攻博士課程修了。博士号（地理学）取得。16年より現職。駒澤大学応用地理研究所所員でもある。

新たなステージに  
繋げる  
駒澤イズム

取材に訪れた日、WWFサンゴ礁保護研究センター「しらほサンゴ村」では、恒例の日曜市が開かれ、地域の人や観光客で賑わっていた。島の食材を使った料理やアサリ（海藻）、生鮮野菜、伝統的な民芸品などが並び、売上の一部がサンゴ礁の保全に充てられている。

この日曜日、もともとは石垣島・白保に伝わる文化を広く発信するために、国際的な環境保全団体のWWFジャパンが始めたものだが、現在は地元NPO法人夏花が運営している。サンゴ礁の保全を進めるには、何より地域の人が主体となり、保全活動や啓発を進めていく必要がある。2000年に設立された「しらほサンゴ村」はその拠点だ。鈴木倫太郎は、2016年からここでセンター長を務めている。



しらほサンゴ村の中庭で毎日曜日に開催されている日曜市

## 人生を決めた 「負けたジャンケン」

「小学生のころから地図帳を見るのが大好きで、飽きずに眺めていました」

鈴木は、いつのまにか地理が大好きになっていったという。中学生のとき、地理学が専門の担任の先生にフィールドワークに連れて行ってもらったことも、地理好きに拍車をかけた。

「大学では地理学を学ぼうと、地理学科のある大学を片っ端から受けて、駒澤大学に拾ってもらったのです」

そんな鈴木の人生を決めたのが、2年次で必修の「野外巡検I」（当時）だった。2年の始めに予定コースの説明会があり、行き先を決める。漠然と文化地理学がやりたいと考えていた鈴木が選んだのは長野に行くコースだったが、希望者が多く、ジャンケンとなった。

「今でも鮮明に覚えています。チョキを出して負けたんです。そこで選んだのが、高木正博先生率いる石垣島でした」

こうして95年6月27日から30日まで、3泊4日で石垣島調査が行われた。参加学生は25人。9班に分かれ、石垣島の土地利用や植生、自然観や宗教を探る風水など、さまざまな角度から実地調査を進めた。鈴木はグループは「赤土班」で、土地改良事業がサンゴ礁に与えた影響を探るために、市役所で資料を探し、パイナップル農家に聞き取り調査を行った。

「調査の一環で白保の海に潜りました。生まれて初めて見るサンゴ礁の美しさに圧倒されて、この海を守らなければ強く思ったのです」  
こうして鈴木は、以後毎年、春と夏に石垣島で、当時院生だった市川清士氏の研究を手

マとしました。毎週木曜にゼミがあるので、院生は私だけでいつも先生と1対1。発表しているのは、英語の論文の詳読内容と、自分が進めた調査結果の報告だけ。2時半からスタートして、終わるのはいつも夜11時を回ります。研究のやり方を鍛えられましたね」

博士課程は、再び駒澤大学に戻り、海岸地形研究の第一人者である小池一之教授（故人）に師事する。  
「それまでの研究で、地形や環境によってサンゴ礁に生息する生物や、生物による浸食の形態が異なることはわかったのですが、定量化しないとサンゴ礁形成の研究には寄与できません。年に4カ月ぐらい石垣島に通いつめ、季節ごとに浸食量を計測したり、実験水槽を組んで観察しました。4年かかって論文をまとめ、学位をいただくことができました」

## 地域住民が参加しての サンゴ分布域マップづくり

しかし、博士号を取得したといってもポストを得るのは容易ではない。その後鈴木は、公立の科学館で子ども向けの科学教室を企画・運営したり、非常勤講師、国立環境研究所の専門員、環境コンサルタントの主任研究員などを務めるかたわら、駒澤大学応用地理研究所に籍を置き、サンゴ礁の研究を続けた。

「どんな形でもいいから研究を続けようと考えていました。サンゴ礁を守るためには、どこにどんな種類のサンゴが分布しているのか、正確な地図が必要です。そこで助成金を得て白保のサンゴ礁の基礎地図を作製。次のステップでは、簡易的な調査方法を考案し、地



アサリ採りの様子を見に海岸にきたおばあさんと談笑。コミュニケーションを図ることも大切だ

## 「白保モデル」の 水平展開がミッション

センター長としての鈴木は、サンゴ村でのイベントやサンゴ礁保全の研修、施設の運営管理のほか、石垣島の行政や関係団体と協働してサンゴ礁の保全活動を行うなど、多岐にわたる。長年の地域づくりの取り組みが成果を上げ、冒頭で述べたように地域が主体となってNPO法人を設立し、自立できるま



写真左：1995年6月の石垣島での調査（左が鈴木） 写真右：シュノーケリングで、サンゴ礁の美しさに圧倒された（左手前が鈴木）

## サンゴ礁の形成過程を 徹底研究

サンゴ礁を守るためには、サンゴ礁の環境がどのように形成されるのかを知らなければならぬ。鈴木は卒業後も研究を続けたいと、岡山大学の修士課程に進む。

「指導教官はサンゴ礁の形成過程が専門の菅浩伸先生（現九州大学教授）でした。ここではサンゴ礁の形成にあたってウニなどの生物がどのような影響を及ぼすかを研究テ

でになった。また、赤土の流出をくいとめるために月桃を植栽し、月桃の葉や茎を蒸留して抽出したルームデオドラントを商品化するなど、赤土対策の先進的な事例も生まれている。  
「私のミッションは、この白保での経験を『白保モデル』として南西諸島に水平展開すること。環境省とも協力して、与論島や喜界島などを精力的に回っています」

地球温暖化などによって、いまサンゴ礁は危機に瀕している。例えば、石垣島と西表島の間広がる石西礁湖は、その規模と生息するサンゴの多様性から日本最大級のサンゴ礁として知られるが、2016年の夏に長期にわたって高水温が続き、棲息するサンゴの9割が白化し、その7割が死滅したといわれる。

「昨夏は、地元の事業者などと協働して、白化現象について情報発信するプロジェクトを立ち上げました。またサンゴ礁保全活動に取り組んでいる企業や団体を認定し、マークなどによって消費者がその商品やサービスを選ぶことができるような仕組みも計画中です」

「白化したサンゴの7割が死んでしまったといっても3割は生きている」と鈴木は言う。サンゴの生命力は強く、条件さえよければ復活できる。「サンゴ礁がなくなり出す豊かな生態系は、私たちの暮らしにさまざまな恵みをもたらしてきました。サンゴ礁生態系の回復は、あるいは私が生きているうちには達成できないかもしれませんが、子どもたちのそのまた子どもたちに、豊かな海を渡すために、今できることを精一杯進めていきたいのです」

豊かな海を広くむサンゴ礁を守るために奔走する日々は続く。

## 子どもたちのそのまた子どもたちに、サンゴ礁の恵みを



©WWF Japan



©WWF Japan / Rintaro Suzuki



©WWF Japan / Rintaro Suzuki



人と自然が調和して生きられる未来を目指して、地球環境の悪化をくい止めるさまざまな活動を実践しています。



## 研究レポート

法学部 政治学科

山崎 望 教授

Yamazaki Nozomu

1974年東京生まれ。98年東京大学法学部3類卒業。2006年同大学院法学政治学専攻科博士課程単位取得退学。法政大学講師を経て06年駒澤大学法学部政治学科講師、11年准教授、17年教授。専門は現代政治理論。近著に『ここから始める政治理論』。

# 世界的な政治への不信の高まりの中で揺らぐ代表制民主主義はどうか？

社会学志望から政治理論の研究の道へ。なぜ人と人はケンカをするのか、なぜ人類は、国と国同士が殺し合う戦争を繰り返すのだろうという素朴な疑問から出発し、グローバル化時代における民主主義の変容を研究テーマに、アクチュアルな問いへの解答を探り続けている。

## グローバル化時代に民主主義は機能するのか？

大きなテーマの1つとして、グローバル化時代における民主主義のあり方を研究しています。

民主主義は基本的には1つの国の中で制度化されて運用されています。一方、資本や人、思想、文化、情報といったものは国境を越えて広がりグローバル化しています。民主主義だけが一国レベルで運用されていて、国境を越えるようなグローバルな事柄をうまくコントロールできるのだろうか、という問題意識が出発点です。

たとえば、テロや難民問題、あるいは経済危機や原発を含めた環境問題などは、いずれも国境を越えた問題に発展していて、一国レベルでは対応が難しくなっています。そうすると、一国で何か決めましたといったところで意味がなくなっているのではないかと。これまで当たり前と思われてきた一国の中の民主主義というものがあるにうまく機能しているのか、問われる時代になっように思われます。

## 世界中で沸き起こる代表制民主主義への不信

現在の民主主義は古代ギリシャのような直接民主主義ではなく、間接民主主義、つまり代表制民主主義です。ところが、有権者

を代表する議員が集まる議会に対して、「自分たちの意見を代表していない」という思いを抱えている人が増えている現実があります。

近年、特に2011年以降、世界中で大規模なデモが頻発しています。たとえば経済危機に陥った南欧のデモ、中東やアフリカでアラブの春といわれた民主化を求めるデモ、アメリカでは「ウォール街を占拠せよ」といったオキュパイ(占拠)運動、日本でも原発や安保法制反対のデモが盛り上がりを見せました。

デモだけでなく、アメリカ大統領選挙でのトランプ氏の勝利や民主党のサンダース氏の躍進、イギリスのEU脱退、ヨーロッパで広がるポピュリズムの問題などもあります。

それがよいかどうかは別にして、これらの動きの共通点は、いずれも誰かに何かを代表してもらって代表制という仕組み自体に、不信感を持つ人々が世界中で溢れ出て、大きなうねりをつくっているということです。

## 市民が直接集まり議論するそこに民主主義の原点を見る

代表制民主主義という制度がうまく機能しなくなっているのなら、これに代わる別の形の民主主義を模索する必要があるのかもしれない。

そこで私が関心を寄せているのは、世界同時多発的に起きているデモや公園・広場



ポスト代表制民主主義をめぐっての論考や、いかに暴力や排外主義に抗していくかをテーマにした著書が多い

を占拠して議論するオキュパイなどの運動です。その動きの中に、今まであまり人々が考えてこなかったような民主主義の仕組みが、少しずつ形をとりはじめているのではないのかと思えるのです。

デモをしたり、公園や広場を占拠するのが民主主義といえるのか、単なる混乱ではないかとの指摘もあるでしょう。しかし、人々が集まって何かについて自分の言葉で話すというのは、民主主義の原点といえなくもありません。意見が違えばもちろんいけません。そういう人に対して、お金の力や暴力で屈伏させるのではなく、あるいは声の大きい人の意見が通るというのではなく、お互いが対等な立場で、自分たちの社会や生活をどうしていくかを話し合う。

もしかしたらそういったことの中から、新しい仕組みが生まれてくるかもしれません。私自身はもちろん議会や国会が必要だとは考えていますが、政治家にすべて任せるとは、一般市民が直接集まって議論し合うことの大切さとその可能性を探求していきたいのです。



## 研究レポート

総合教育研究部  
外国語 第二部門(中国語)

小川 隆 教授

Ogawa Takashi

1961年生。岡山出身。83年駒澤大学仏教学部禅学科卒業、90年駒澤大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得満期退学。91年同大学講師、助教授を経て2005年教授。09年「語録の思想史—中国禅宗文献の研究」で博士(文学、東京大学)。著書多数。

# 系譜の宗教であり、問答の宗教である中国の禅宗。その語録の思想史的解読に取り組む

禅の問答が難解で不可解なのはなぜなのか？ 学生たちに中国語を教える一方、中国禅宗史研究の第一人者として、問答を記録した禅の語録の思想史的解読に取り組んでいるのが小川教授。語学的な理解と思想史的な理解がカチッと噛み合ったときに味わう醍醐味に魅せられている。

## 坐禅は禅宗だけのものではないでは禅の本当の特徴とは？

禅、あるいは禅宗という言葉が国語辞典や仏教辞典で引くと、「坐禅によって悟りを開くことをめざす宗教」と書かれています。でも、これは禅宗の特徴とは言えません。坐禅が禅宗にとって重要でないという意味ではなく、そもそも坐禅は原始仏教の時代から仏教全体の共通の修行であり、なおかつ仏教独自のものですらないからです。

ならば禅宗の本当の特徴といえるものは何か？ それは次の3つです。

1つは「系譜の宗教」であるということ。禅宗には開祖や教祖はいません。聖典と呼ばれるものもありません。代々、悟った人から悟った人の、心から心に、直に「法」そのものが伝えられてきました。禅の歴代の祖師というのは、いわば、「仏法」という栄光のタスキをリレーしてきた駅伝のランナーたちなのです。

禅はこうして繋いできた系譜の総体を信仰し、かつ自らもその1人となるという宗教と言えます。

2つめは「問答の宗教」であるということ。教義とか聖典というものがない代わりに、問答によって修行者自身に悟らせるのが禅宗です。

3つめは「清規」といって、インド以来の戒律とは別に、中国でできた、禅宗独自の集団的な修行生活の規範を持っていることです。

## 禅問答がチンプンカンプンといわれるわけは？

私の研究は、2つめの特徴として述べた問答の記録、つまり中国の禅の語録を学問的に解読することです。

禅の問答は難解といわれますが、その背景の一つに語学的な問題があります。問答は口頭で行われ、それを記録したものが語録ですから、口語文として書かれています。禅が発展したのは中国の唐や宋の時代で、それぞれの時代で話し言葉も違えば、伝統的な文語文とは異なる語彙や文法もたくさん出てきます。ですから、それぞれの時代の話し言葉の理解が必須なのです。

2番目の難しさは宗教的問題です。禅の問答は師が弟子に正解を教えるものではなく、質問者である弟子自身に答えを発見させるよう、師が問いを投げかえすしかけになっています。そこで弟子が答えに気づかないと、非常にトンチンカンなものに見えてしまうのです。

## 外在の知識ではなく自ら発見したものこそ真実

禅には「従門入者不従家珍(門より入る者は家珍にあらず)」という言葉があります。門を通して外から入ってきたものは、わが家の家宝ではない。外在の知識は真実ではありえず、わが身の

に自ら発見したもののみが真実たりうる、ということ。

ですから老師は絶対に正解を言わない。ナゾかけのような言葉で弟子に気づいてもらうことをめざしているわけです。

さらに、問答の前提になっている禅の思想を理解することも必要です。ところが前提となる思想は、この問答から読み取るしかない。そこが実に難しいのです。しかし根気よく研究を続けていると、何かの機会に「あっ、こういうことなのか!」とわかることがあります。微視的な語学的理解と巨視的な思想史的理解がカチッと噛み合うのです。すると、一つの問答だけでなく、複数の問答が関連づけられて一度にわかったりします。

ハッとわかった瞬間は、固く閉じたツボミのようだった脳みそが、一気にパーッと満開になるような感じがします。そんなとき、研究の醍醐味を味わいます。



小川教授の思い出を綴った「受難日は、いつか、記念日になる」の電車広告は大きな話題を呼んだ

駒大 電車内広告 検索



# 数字で見える

## 駒澤大学の就職力

駒澤大学キャリアセンターでは、一人ひとりの学生に向けてきめ細かな就職支援を実施している。3年次の4月に第1回就職ガイダンスがスタート。業界研究講座をはじめ、各種資格試験、公務員などの対策講座は300講座。学内で行われる合同企業説明会への参加企業は944社に上る。こうした支援の成果をデータで紹介しよう。

求人企業  
**14,726社**

東京を中心に、全国各地の多様な業種の企業から学生一人当たり5.16社と多数の求人がある。

求人倍率  
**5.16倍**

全国の大卒求人倍率の1.74\*と比べ、3倍近い求人倍率だ。(2016年度卒業生対象) ※出典:リクルートワークス研究所

就職決定率  
**97.4%**

2016年度卒業生の就職決定者は2017年3月末で2780人。就職希望者の97.4%にのぼる

### 2016年度卒業生の進路状況 2017年3月31日現在

	仏教学部		文学部						経済学部			法学部			経営学部		医療健康科学部	GMS学部	合計
	禅	仏教	国文	英米文	地理	歴史	社会	心理	経済	商	現代応用経済	法律A	法律B	政治	経営	市場戦略			
就職希望者数*	68	91	111	126	113	143	158	65	342	231	130	250	74	184	291	176	41	260	2854
就職決定者数	67	88	105	124	110	143	155	62	329	223	128	242	72	180	286	171	41	254	2780
進学者数 (大学院・大学・留学)	5	7	3	7	7	16	1	7	7	4	0	9	1	3	5	2	4	8	96
各種学校進学者数 (専門学校等)	0	1	1	1	1	0	1	0	3	0	1	4	0	0	2	1	0	6	22
各種試験受験準備	2	5	2	2	0	11	7	2	11	1	1	19	3	7	3	1	3	4	84

### 主な就職先

#### 仏教学部

- 禅学科**  
 国稲酒造  
 大塚商会  
 トモズ  
 テイクアンドギヴ・ニーズ  
 一般社団法人  
 日本自動車連盟(JAF)  
 神奈川県警察  
 八千代町役場  
 本山安居
- 仏教学科**  
 アライヘルメット  
 伊坂美術印刷  
 全農ハイバック  
 キューマン  
 久月  
 叶匠寿庵  
 アペコー  
 住信SBIネット銀行  
 きらやか銀行  
 東急グルメフロント  
 アースサポート  
 JTBグローバルマーケティング  
 &トラベル  
 ノバレーゼ  
 東急セキュリティ  
 杉孝  
 教員  
 本山安居

#### 文学部

- 国文学科**  
 虎屋  
 ブックオフコーポレーション  
 三省堂書店  
 コメリ  
 ヨドバシカメラ  
 コナカ  
 みずほフィナンシャルグループ  
 日本郵政グループ  
 城南信用金庫  
 学校法人昭和大学  
 学校法人駒澤大学  
 セレシ川崎農業協同組合  
 防衛省 海上自衛隊  
 清瀬市役所  
 渋谷区役所  
 教員
- 英米文学科**  
 全日本空輸  
 ANAエアポートサービス  
 羽田エグラランドハンドリング  
 日本郵政グループ  
 エイチ・アイ・エス  
 JTB首都圏  
 東武トップアーズ  
 ザ・キャピトルホテル東急  
 富士通  
 ベイクルーズ  
 スタートトゥデイ  
 ファーストリテイリング  
 東急百貨店  
 三井住友銀行  
 みずほフィナンシャルグループ  
 東日本銀行  
 八十二銀行  
 野村證券  
 明治安田生命保険  
 プリンズホテル  
 小学館集英社プロダクション  
 法務省 東京入国管理局

- 社会学科(社会学専攻)**  
 相模鉄道  
 トンボ鉛筆  
 ディー・エイチ・シー  
 大塚製薬  
 日本出版販売  
 栃木銀行  
 常陽銀行  
 クレディセゾン  
 日本生命保険  
 日本郵政グループ  
 ニチエ学館

- 警視庁  
 志木市役所  
 新居浜市役所  
 教員

#### 地理学科

- ANA新千歳空港  
 国際航業  
 日本貨物鉄道(JR貨物)  
 東京地下鉄(東京メトロ)  
 東京急行電鉄  
 THK  
 世界文化社  
 小山酒造  
 平和食品工業  
 岡部バルブ工業  
 AOKI  
 三菱東京UFJ銀行  
 多摩信用金庫  
 地方職員共済組合  
 地方共済事務局  
 ニチエ学館  
 ANAエアポートサービス  
 日本郵政グループ  
 大本山成田山 新勝寺  
 一般社団法人日本温泉協会  
 防衛省 海上自衛隊  
 東京都庁  
 江別市役所  
 上尾市役所  
 群馬県警察  
 神奈川県警察  
 教員

#### 歴史学科

- エイブル  
 USEN  
 リコー  
 文化シヤッター  
 トンボ  
 日本出版販売  
 渡辺パイプ  
 浜屋ガラス  
 青山商事  
 北國銀行  
 オリエントコーポレーション  
 日本郵政グループ  
 川崎信用金庫  
 西武信用金庫  
 長野県信用農業協同組合連合会  
 (JAバンク長野県信連)  
 日本生命保険  
 リソートトラスト  
 学校法人駒澤大学  
 パンケット・プランニング  
 野村不動産パートナーズ  
 JTB首都圏  
 ANA成田エアポートサービス  
 目黒区役所  
 横浜市役所  
 潮来市役所  
 警視庁  
 埼玉県警察  
 教員

#### 経済学部

- 経済学科**  
 東京ガス  
 一条工務店  
 住友林業  
 東日本旅客鉄道(JR東日本)  
 東京急行電鉄  
 東急バス  
 THK  
 伊藤園  
 久光製薬  
 クリナップ  
 トヨタ自動車  
 日清食品ホールディングス  
 三井物産  
 日本ハムグループ  
 ヒゲタ醤油  
 キーエンス  
 花王カスタマーマーケティング  
 加賀電子  
 三菱商事エネルギー  
 伊藤忠食品  
 ローソン  
 三菱東京UFJ銀行  
 みずほフィナンシャルグループ  
 広島銀行  
 常陽銀行  
 三井住友銀行  
 りそな銀行  
 三菱UFJ信託銀行  
 オリエントコーポレーション  
 野村證券  
 世田谷信用金庫  
 日本生命保険  
 日本郵政グループ  
 損害保険ジャパン日本興亜

- 現代応用経済学科**  
 東急コミュニティー  
 東日本旅客鉄道(JR東日本)  
 イトーキ  
 ミドリ安全  
 あらた  
 みずほフィナンシャルグループ  
 東日本銀行  
 りそなカード  
 ANAエアポートサービス  
 日本郵政グループ  
 日本旅行  
 富山市役所  
 伊勢崎市役所  
 新潟県警察  
 教員

- 中央労働金庫  
 ANAエアポートサービス  
 博報堂プロダクツ  
 JTBコーポレートセールス  
 千葉県庁  
 川崎市役所  
 二本松市役所  
 渋谷区役所  
 警視庁  
 横浜市消防局  
 教員

#### 商学科

- 四国旅客鉄道(JR四国)  
 リスパック  
 フジシール(フジシールグループ)  
 リコー  
 リンナイ  
 美和ロック  
 ホーチキ  
 オリコン  
 東芝テック  
 エバラ食品工業  
 三井食品  
 三菱食品  
 青山商事  
 そごう・西武  
 三井住友銀行  
 ソニー銀行  
 みずほフィナンシャルグループ  
 クレディセゾン  
 日本郵政グループ  
 明治安田生命保険  
 日本生命保険  
 あいおいニッセイ同和損害保険  
 学校法人青山学院  
 JALスカイ  
 ぱど  
 朝日広告社  
 船井総合研究所  
 西追会計事務所  
 JTB国内旅行企画  
 防衛省 陸上自衛隊  
 行方市役所  
 八千代市役所  
 警視庁  
 教員

#### 政治学科

- 積水ハウス  
 スタツコーポレーション  
 日本通運  
 ソフトバンク  
 ディー・エイチ・シー  
 小野薬品工業  
 明治グループ  
 能美防災  
 日立製作所  
 ヨックモック  
 三井物産プラスチック  
 JA高崎ハム  
 タイハイ  
 AOKI  
 青山商事  
 武蔵野銀行  
 みずほフィナンシャルグループ  
 七十七銀行  
 磐田信用金庫  
 日本生命保険  
 日本郵政グループ  
 損害保険ジャパン日本興亜  
 相模ホテル  
 横浜ベイシヤトルホテル&タワーズ  
 東京芸術大学  
 アニヴェルセル  
 クラブツーリズム  
 JTBコーポレートセールス  
 東京国税局  
 厚生労働省

#### 法律学科

- 法律学科フレックスA**  
 大和ハウス工業  
 積水ハウス  
 東日本旅客鉄道(JR東日本)  
 ジュビターテレコム  
 小野薬品工業  
 UHA味覚糖  
 セブン-イレブン・ジャパン  
 AOKI

- 青山商事  
 三井住友銀行  
 埼玉りそな銀行  
 日本郵政グループ  
 セディナ  
 オリエントコーポレーション  
 昭和信用金庫  
 ソニー損害保険  
 船井総合研究所  
 司法書士法人A.I.グローバル  
 一般財団法人建設物価調査会  
 クラブツーリズム  
 近畿日本ツーリスト  
 裁判所事務官  
 東京国税局  
 千葉県庁  
 高崎市役所  
 さいたま市役所  
 警視庁  
 宮城県警察  
 神奈川県警察  
 千葉県警察  
 教員

#### 法律学科フレックスB

- 大東建託  
 東日本電信電話(NTT東日本)  
 三井住友銀行  
 エスピー食品  
 リコージャパン  
 大塚商会  
 日本アークセス  
 ローソン  
 青山商事  
 みずほフィナンシャルグループ  
 三井生命保険  
 独立行政法人  
 勤労者退職金共済機構  
 日本年金機構  
 上田市役所  
 宮城県警察  
 神栖市役所  
 警視庁

#### 現代応用経済学科

- 東急コミュニティー  
 東日本旅客鉄道(JR東日本)  
 イトーキ  
 ミドリ安全  
 あらた  
 みずほフィナンシャルグループ  
 東日本銀行  
 りそなカード  
 ANAエアポートサービス  
 日本郵政グループ  
 日本旅行  
 富山市役所  
 伊勢崎市役所  
 新潟県警察  
 教員

#### 現代応用経済学科

- 東急コミュニティー  
 東日本旅客鉄道(JR東日本)  
 イトーキ  
 ミドリ安全  
 あらた  
 みずほフィナンシャルグループ  
 東日本銀行  
 りそなカード  
 ANAエアポートサービス  
 日本郵政グループ  
 日本旅行  
 富山市役所  
 伊勢崎市役所  
 新潟県警察  
 教員

- 成田市役所  
 熊谷市役所  
 警視庁  
 東京消防庁  
 教員

#### 経営学部

- 経営学科**  
 住友林業  
 九電工  
 全日本空輸  
 東京急行電鉄  
 東日本旅客鉄道(JR東日本)  
 伊藤園  
 明治グループ  
 ファンケル  
 クリナップ  
 東ハト  
 ハウス食品  
 花王カスタマーマーケティング  
 大塚商会  
 ファーストリテイリング  
 横浜銀行  
 三井住友銀行  
 三菱東京UFJ銀行  
 ユーシーカード  
 日本生命保険  
 狭山市役所  
 草加市役所  
 警視庁

#### 市場戦略学科

- ヤクルト本社  
 山崎製パン  
 カルチュア・コンビニエンス・クラブ  
 セブン-イレブン・ジャパン  
 ファーストリテイリング  
 みずほフィナンシャルグループ  
 楽天カード  
 野村證券  
 横浜信用金庫  
 第一生命保険  
 中央労働金庫  
 エイチ・アイ・エス  
 クラブツーリズム  
 東武トップアーズ  
 関東越前国税局

#### 医療健康科学部

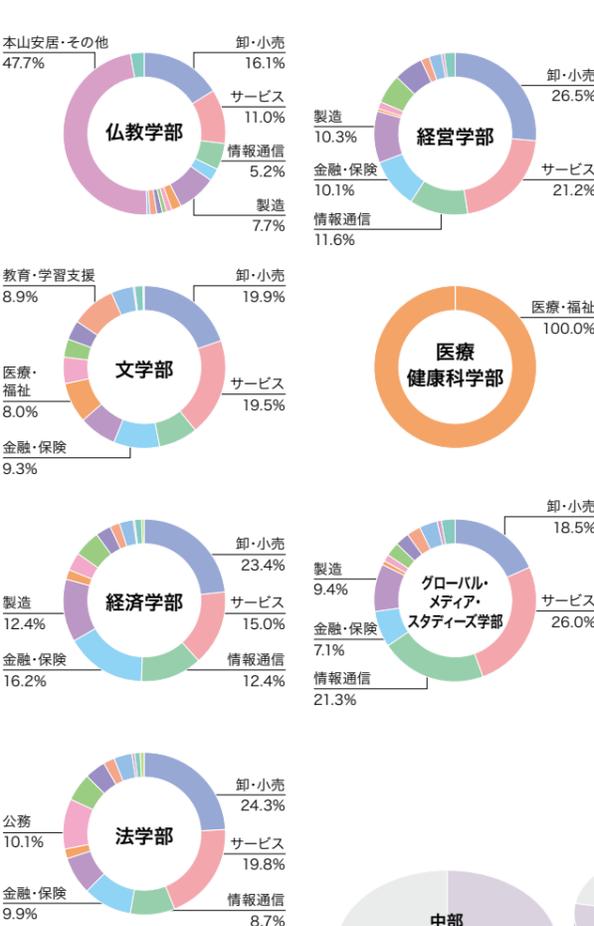
- 診療放射線技術科学科**  
 学校法人聖マリアンナ医科大学  
 附属病院  
 地方独立行政法人  
 神奈川県立病院機構  
 国立大学法人千葉大学  
 千葉大学医学部附属病院  
 埼玉県立病院  
 独立行政法人  
 地域医療機能推進機構中京病院  
 国立大学法人東京医科歯科大学  
 医学部附属病院  
 日本赤十字社諏訪赤十字病院  
 学校法人順天堂  
 順天堂大学医学部附属順天堂医院  
 社会福祉法人恩賜財団済生会  
 千葉県済生会習志野病院  
 一般財団法人自警会  
 東京警察病院  
 社会福祉法人社幸会  
 行田総合病院  
 社会医療法人栗山会  
 飯田病院  
 公益社団法人地域医療振興協会  
 横須賀市立うらまち病院

- 日本私立学校振興・共済事業団  
 東京臨海病院  
 医療法人新青会  
 川口工業総合病院  
 公立大学法人京都府立医科大学  
 附属北部医療センター  
 医療法人社団晃進会  
 たまひ吉台病院  
 医療法人財団明理会  
 東京腎臓センター大和病院  
 医療法人財団明理会  
 イムス明理会山台総合病院  
 特定医療法人慶友会  
 慶友整形外科病院  
 社会福祉法人東京有隣会  
 有隣病院  
 信濃町立信越病院  
 一部事務組合下北医療センター  
 むつ総合病院  
 学校法人聖マリアンナ医科大学  
 横浜市西部病院  
 独立行政法人国立病院機構  
 東京医療センター  
 一般財団法人健康医学協会  
 国立研究開発法人  
 国立国際医療研究センター  
 特定医療法人社団若林会  
 湘南中央病院  
 公立大学法人横浜市立大学  
 横浜市立大学附属病院  
 学校法人順天堂  
 順天堂大学医学部附属練馬病院  
 独立行政法人  
 地域医療機能推進機構(JCHO)  
 国立研究開発法人  
 国立がん研究センター中央病院  
 学校法人慈恵大学  
 東京慈恵医科大学豊胸センター

#### グローバル・メディア・スタディーズ(GMS)学部

- グローバル・メディア・スタディーズ(GMS)学部**  
**グローバル・メディア学科**  
 全日本空輸  
 日本航空  
 ソラシドエア  
 東日本旅客鉄道(JR東日本)  
 長谷工コーポレーション  
 大和ハウス工業  
 DMM.Comグループ  
 楽天  
 パンダビジュアル  
 テレビ新広島  
 凸版印刷  
 新潮社  
 日本電気(NEC)  
 富士通  
 TDK  
 大塚商会  
 モリト  
 三越伊勢丹  
 そごう・西武  
 みずほフィナンシャルグループ  
 三井住友海上あいおい生命保険  
 東京海上日動火災保険  
 三井不動産ホテルマネジメント  
 JALスカイ  
 ナムコ  
 ANA沖縄空港  
 エイチ・アイ・エス  
 神奈川県庁  
 警視庁  
 神奈川県警察  
 教員

### 学部別就職先の業種 (2016年度)



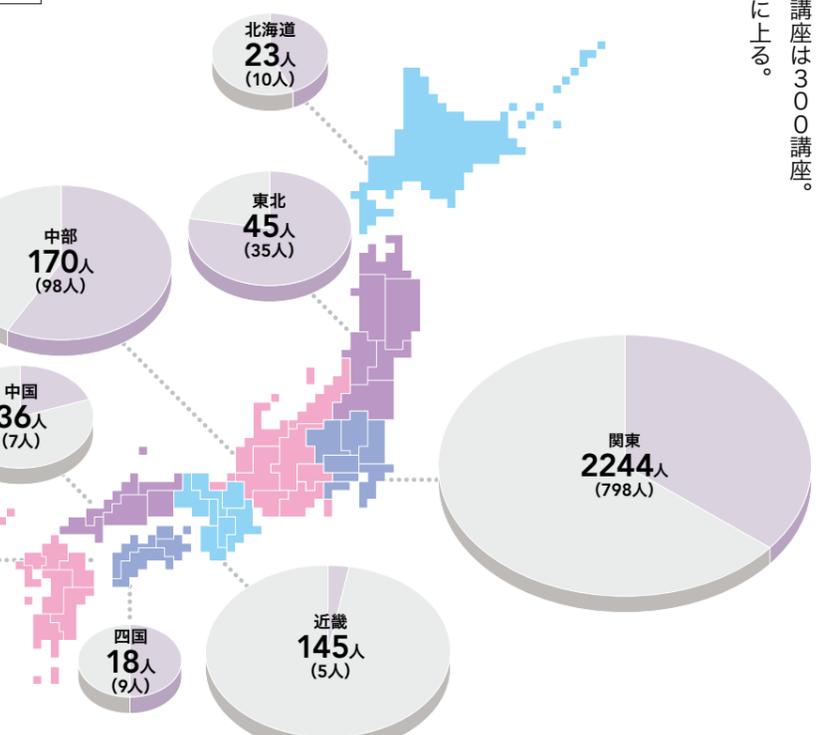
### 就職先の業種 (2016年度)

1	卸・小売	611人
2	サービス	516人
3	情報通信	296人
4	金融・保険	292人
5	製造	255人
6	医療・福祉	126人
7	公務(国家・地方)	124人
8	不動産	123人
9	建設	106人
10	教育・学習支援	101人
11	運輸	90人
12	本山安居・その他	86人
13	宿泊・飲食	46人
14	農業・漁業・電気・鉱業	8人

※「公務」には「医療・福祉」、「教育・学習支援」に分類されるものは除く

### 地域別就職状況

全国各地に就職しており、東北、九州・沖縄、中部、四国は、Uターン就職率が5割を超えている。





# 「学生ファースト」を基本に 駒澤大学ならではの教育を追求 長谷部 八朗 駒澤大学学長

2017年4月1日より新学長に就任した長谷部八朗・仏教学部教授。  
学生時代の貴重な出会いによって、駒澤大学で研究の道を進むことになったという。  
建学の理念にもとづく「柔軟心」を身につけ、  
現代社会の課題を創造的に解決する学生を育成するのが駒澤大学の使命と語る。

**長谷部 八朗 (はせべ はちろう) プロフィール**  
1950年生まれ。74年慶應義塾大学商学部卒業。82年駒澤大学大学院人文科学研究科社会学専攻博士後期課程満期退学。96年同大学仏教学部助教授。2002年同教授。2017年学長に就任。日本宗教学会常務理事・評議員、日本山岳修験学会副会長兼事務局長。

## 落ち着きと活気が調和した 一体感が駒澤大学の特長

私は1996年に駒澤大学仏教学部の助教授に就任して以来、今まで20年余りを駒澤大学の教員として過ごしてきました。

外活動が盛んであることや、全学部が一つのキャンパスに集まっていることもプラスに働いているでしょう。そうした中で、学生同士、あるいは学生と教職員、卒業生も含めて、諸活動を通じた繋がりがあり、密度の濃い一体感を生み出しています。  
キャンパスの落ち着きと活気、それらを含めた一体感が駒澤大学の特長であり、駒澤ならではの個性だと思います。

## 学生ファーストで 教育の質を保証していく

こうした駒澤大学の良さの上に立つて、ぜひとも推進していきたいと考えているのが、「学生ファースト」という考えです。大学の教育とは、ひとえに学生のためのものであり、「学生のために何ができるか」を念頭に大学としての施策を構築し、教職員一体となって実行していく。具体的には、カリキュラム改革を進め、学生が資格取得にチャレンジしやすいような環境づくりを進めることや、教育の質を評価するため手法の開発など、中期事業計画にもとづき「教育の質」を高め、保証する体制づくりを推進していきます。

また、現在建設が進んでいる130周年記念棟「種月館」は、本年12月に第1期工事が竣工し、来春には運用を開始します。こうした最新の教育環境も、学生ファーストに向けた大きな飛躍のツールといえます。

その間ずっと感じているのは、駒澤大学には独特の落ち着きがあるということだと思います。それはもちろん、仏教の教えと禅の心にもとづく「建学の理念」による教育効果が生み出したものであるでしょうし、東京でありながら緑豊かな駒沢の地で学園生活を過ごす

## 実学の教育と 柔軟心の両面で

とはいえ、学生ファーストは、学生をお客さま扱いすることではありません。グローバル化が進み、日本が人口減少社会・高齢社会へと移行するなかで、社会に生まれたひずみや課題を創造的に解決していく力を持った学生を育てていくための大学の姿勢の基本といえるものです。

ここで重要なのが、学生の精神性を成長させていくことでしょう。そのためには、本学の理念である「行学一如」、すなわち、自己形成をめざす「行」と学問研究とは一体であるという考え方とともに、「柔軟心」を学生たちに修得してほしいと考えています。

柔軟心とは、的確な判断を下す「智慧」と、人を哀れみ慈しむ「慈悲」からなる心のあり方を指します。多様な価値観が交錯する現代を生きていくうえで、異質なものを排除することなく、柔軟で強靱な精神をもって新しい道を進んでいくためのキーワードです。

高い専門性や実用的なスキルといった実学的な教育と、柔軟心という内面の教育、これらを両方備えた人間の育成を、学生ファーストの重要な柱としていく。これこそ420年以上の歴史によって育まれた伝統の強みであり、駒澤大学ならではの教育といえるのです。

すことができるという利点もあるでしょう。これらが複合的に作用して、教職員や学生も含め大学全体に落ち着きのようなものを醸し出しているのではないかと思います。

## 座右の銘は「継続は力なり」 出会いと繋がりを大切に

座右の銘を問われて、学生にもよく言うのは「継続は力なり」という言葉です。文字通り、遠大な夢もまず一歩からということ、一歩一歩の蓄積が大切であり、寄り道しながらもコツコツ進んでいく、それが実はいちばんの近道というわけですね。

そしてもう一つ日ごろ私が大切に思っているのは「出会い」です。人と人との出会いだけではありません。書物や言葉との出会いも、場所との出会いもあるでしょう。しかし経験を積み重ねないと出会うことができませんから、若いうちには好奇心を持って、アクティブに活動しなさいと学生たちに伝えています。失敗が許されるのも若い今だからこそ、試行錯誤を重ねることによって、人間として次のステップに進めるのです。

例えば商学部で学んでいた私が宗教学に関心を持ったのは、本学教授だった古野清人先生が訳したデュルケムの『宗教生活の原初形態』との出会いがきっかけでした。その後、駒澤大学の大学院で桜井徳太郎先生に師事し、研究の道に進んだのです。  
出会いから人と人が繋がり、道が開けていく。本学の駅伝のように、タスキを繋ぐ根本に出会いがあります。学生諸君には本学で多くの出会いを経験し、自分の道を見つけてほしいと思います。

### 沿革

- 1592年 江戸駿河台吉祥寺境内に「学林」設立 (文禄元年)
- 駒澤大学の前身である「学林」は、曹洞宗が禅の実践と仏教の研究、そして漢学の振興を目的として設立
- 1657年 吉祥寺駒込に移転、中国の名僧・陳道栄が「施檀林」と命名 (明暦3年)
- 1822年 麻布区北日ヶ窪町に校舎を新築して移転、10月15日に校名を「曹洞宗大 学林」専門本校とする (明治15年)
- 1905年 校名を「曹洞宗大学」と改称 (明治38年)
- 1913年 大学を現在の駒沢(旧東京府荏原郡駒澤村)の地に移転 (大正2年)
- 1925年 大学令による大学として認可、駒澤大学と改称 (大正14年)
- 1949年 学制改革により新制大学に移行、仏教学部・文学部・商経学部の3学部で再スタート (昭和24年)
- 1951年 学校法人令による学校法人駒澤大学に組織変更 (昭和26年)
- 1964年 法学部を開設 (昭和39年)
- 1966年 商経学部を経済学部と名称変更し、経済学科・商学科を開設 (昭和41年)
- 1969年 経営学部を開設 (昭和44年)
- 1982年 開校100周年 (昭和57年)
- 1992年 「学林」設立以来400年を迎える (平成4年)
- 2003年 医療健康科学部を開設 (平成15年)
- 2004年 大学院法曹養成研究科(法科大学院)を開設 (平成16年)
- 2006年 グローバル・メディア・スタディーズ学部を開設 (平成18年)
- 2012年 開校130周年 (平成24年)
- 2013年 駒沢移転100周年 (平成25年)
- 2015年 開校130周年記念棟建設始まる (平成27年)



玉川キャンパスグラウンド

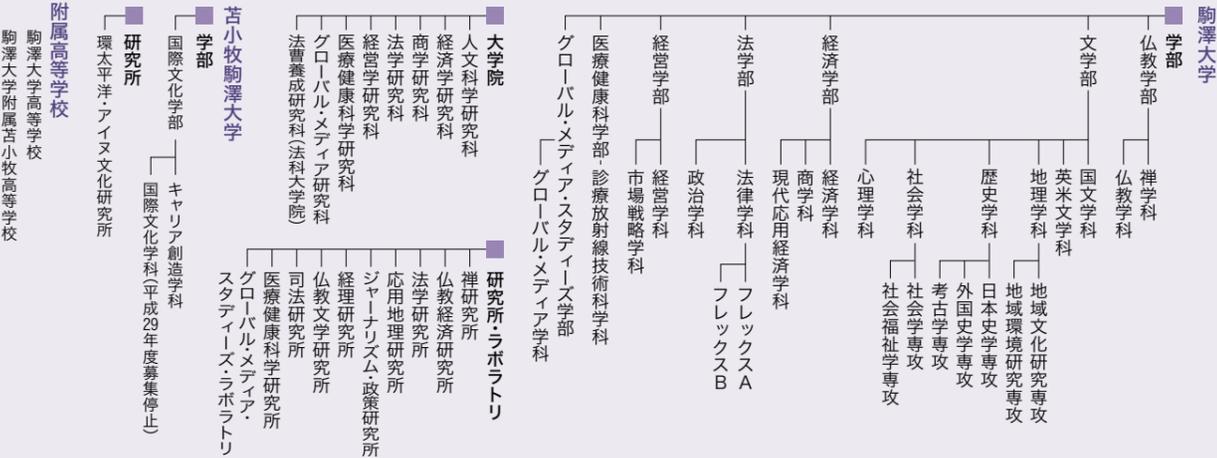


駒沢移転当時の大講堂



曹洞宗大学林の学生たち

### 学校法人駒澤大学教育機構





〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1  
TEL.(03)3418-9828 FAX.(03)3418-9017  
<https://www.komazawa-u.ac.jp/>

K O M A Z A W A  
U N I V E R S I T Y

*Link*

Link(リンク)には「人と人の繋がり」「伝統を繋げる」「地域と繋がる」という意味が込められています。